



# 2004年の 台風災害体験

小松町妙口 徳永スズ子 さん  
(妙口下)

▲妙之谷川の氾濫によって、水があふれ出した国道11号。  
(妙之谷川橋付近。松山方面から西条方面を望む)

2004年9月29日の夕方、本当に恐ろしいことが何の予告もなく起こりました。気が付いて2・3分程で家の中が濁流に襲われ、一足逃げ遅れたなら助かることがなかったでしょう。

その日、私は書道教室をやっている関係で、ちょうど字を書こうとしていたときです。まだ明るい夕方、台風の影響で激しい雨が降り続けていた中でした。

家の前は国道11号線で、車がいつものように行き来していましたが、ふと家の前で車が止まる気配があり、続いて車がUターンし出したのです。何か事故でも起こったのかなと思つて外を見ると、もう国道は川のようになっていました。

これは大変なことだと思い、玄関の方へ行くと、靴が「ぶかぶか」と浮き始めているのです。隣の人に知らせなければと思い、電話をしましたが話し中で、続けて119番しましたが、その後不思議なことにサイレンが一つも鳴らなかったと記憶しています。

少しして寝室に行くと、水が足元に迫つて来たので、主人の位牌を持ち急いで2階に上がりました。5分もたない間に、すねまで水が来ており、畳も浮いてきている状態で、夢中で階段を駆け上がつて後ろを振り向くと、4・5段まで水が来ているのが見えました。

もう激流でした。テレビで見たスマホでの津波と同じでした。飲み水を持ってきたら良かったと思つて振り返ったのですが、もう下りていけない状態ではなく、すごい勢いだったのです。

それから2階で泣きながら「助けて、

助けて」と叫んでいました。水が出るとボートで助けに来てもらうイメージがありますが、とてもボートで助けに来るなんて不可能な状態でした。

国道を挟んで向かいの酒屋さんに打ち寄せる濁流は、日本海の大波と同じに見えました。それから、裏側の平屋の家は瓦屋根が少ししか見えなくなり、庭の植木が全然見えなくなりました。今日おしまいと、一時はほんとうに覚悟しました。次はどこへ逃げようかと思ひ、少しでも高い屋根の方を見ていました。

後で聞いた話ですが、近所では、おばあさんと子ども4人で生垣にすがつていた話や、泳いで屋根の上つて救助を待った人など、辛うじて助かったという方々が何人もいたようです。

少し川上の方の話では、流木などでせき止められていた橋が壊れて、一気に増えた濁流が妙口の家々の回りに押し寄せた様を見て、もう妙口の地区も終わりと感じるほどだったそうです。

近所では車も人も流され、皮や枝もはぎ取られた大木が根こそぎ濁流とともに流れてきて道路に横たわっていました。それに木や物がかえてダムのようになり、水かさもさらに増して、大木が「ドーン、ドーン」と家に当たる様は、この世のものではありませんでした。これがもう1時間遅く、暗くなつていたときに起こっていたら、全滅だったと思つたものです。

ほどなく水も引いたため、近所の方が助けに来てくれました。水が出ている間は、とても近づける状態ではなかったよ

うです。

あつという間に、家屋も家財もすべて失つてしまいました。近所では人や家や田畑が流されたりと大きな被害を受け、困っている人も多かつたと記憶しています。今まで水害の状況はテレビなどで見ていましたが、この時のように急激な川の氾濫・激流は、今まで例がないように思いました。

その時の恐怖から早く抜け出したいと思つてきましたが、なかなか頭から消えることはありません。

私たちが受けた被害の原因は、流れてきた大木の山が橋に詰まつたことに尽きます。このままでは、大雨の度にまたこのようなことが起こります。昨今のいろいろな災害の様子を見ていると、地球や大自然が怒つて警告を発しているように思えてなりません。

私の住んでいる地域は石鎚山に守られた大変いい所でした。どうか、安心して住むことができる土地にさせていただきま



▲台風が過ぎ、一夜明けた妙之谷川橋付近。濁流で家屋が壊滅し、徳永さんをはじめ多くの人が被災生活を余儀なくされた。